

# めぐみイエス・キリスト教会

2018年4月8日(日)第二主日礼拝  
週報「通算第400号」



## 2018年標題聖句

### 使徒の働き27章22節～26節

27:22 「しかし、今、お勧めします。元気を出しなさい。あなたがたのうち、いのちを失う者はひとりもありません。失われるのは船だけです。

27:23 昨夜、私の主で、私の仕えている神の御使いが、私の前に立って、

27:24 こう言いました。『恐れてはいけません。パウロ。あなたは必ずカイザルの前に立ちます。そして、神はあなたと同船している人々をみな、あなたにお与えになったのです。』

27:25 ですから、皆さん。元気を出しなさい。すべて私に告げられたとおりになると、私は神によって信じています。

27:26 私たちは必ず、どこかの島に打ち上げられます。」

主日礼拝毎週日曜日 午前10時～11時

聖書研究・祈禱会 毎週水曜日 午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2018年4月8日(第二主日礼拝)

午前10時～11時

司会 鈴木 竜実 牧師 奏楽 佐野 みゆきさん

◎礼拝プログラム

【前奏祈り】

【賛美Ⅰ】 新聖歌127「墓の中に」 p. 178

【交読文】 No.51 マタイの福音書第5章 p. 920

【賛美Ⅱ】 新聖歌128「イースターの朝には」 p. 180

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.3 「復活の日の朝」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書20章26節～31節(新約p. 205)

【祈 禱】

【説 教】 《復活された一週間後に》 鈴木竜実牧師

【聖 餐 式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

●ポイント1 復活された日曜日の夕方において

※ルカの福音書24章33節～36節「エルサレムに戻る二人」(新約p.115)

24:33 すぐさまふたりは立って、エルサレムに戻ってみると、十一使徒とその仲間が集まって、

24:34 「ほんとうに主はよみがえって、シモンにお姿を現わされた。」と言っていた。

24:35 彼らも、道であったいろいろなことや、パンを裂かれたときにイエスだとわかった次第を話した。

24:36 これらのことを話している間に、イエスご自身が彼らの真中に立たれた。

## ※ヨハネの福音書20章19節～25節「ゼベタイの家で」(新約p.204下段)

### ●ポイント2 主イエス様の弟子たちへの命令とは？

#### ※マルコの福音書16章6節～7節「御使いの弟子への伝言」(新約p.94)

16:6 青年は言った。「驚いてはいけません。あなたがたは、十字架につけられたナザレ人イエスを捜しているのでしょうか。あの方はよみがえられました。ここにはおられません。ご覧なさい。ここがあの方の納められた所です。

16:7 ですから行って、お弟子たちとペテロに、『イエスは、あなたがたより先にガリラヤへ行かれます。前に言われたとおり、そこでお会いできます。』とそう言いなさい。」

### ●ポイント3 一人の魂の為に。

#### ※ヨハネの福音書3章16節～17節「使徒ヨハネの解釈から」(新約p.161)

3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

3:17 神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。

## ※その後のトマス

伝承ではペルシャとインドにまで伝道に赴きます。今現在でも、インドにはトマスを崇敬する教会が存在します。紀元後53年に、異教の祭司によって、剣で刺し殺され殉教したと伝えられています。

## ◎先週のメッセージの概要【番兵が体験したこととは？】

《さて、イエス様が十字架にかけられる時、ローマ総督ピラトは、イエス様を官邸の中に連れて行って、イエス様の回りに全部隊を集めました。この時、近隣の多くの部隊を応援に来させていますが、十字架刑を執行し、その見張りをしたのは、ピラトの率いる百人隊であり、百人隊長です。その百人隊長はかつて息子同様の僕を癒やされた者と同一視する学者が多くいます。

イエス様と二人の強盗の十字架刑には、その部隊が制圧に当たりました。マタイは、イエス様が十字架上で息を引き取られた時に、その百人隊長および見張りをしていた兵士は、地震やその他の出来事を見て、非常な恐れを感じ、「この方はまことに神の子であった」と言ったことを書き記しています。

さてピラトは、ユダヤ議会の要望に応えます。そして百人隊長と兵士たちを、イエス様が葬られた墓の見張りに向かわせます。まず彼らは、鉄製の鎖を用いてローマ式封印を行ないました。そしてローマ兵は見張りに着きます。

そして、三日目の朝早くのことです。彼らは、御使いによって、七人がかりでなければ動かさない墓石が、木の葉のようにころがり、縦と横に十字に釘付けされた鉄製の鎖が引きちぎれるのを目撃します。彼らこそが生きた証人です。主イエス様の復活の場面に居合わせたのは、彼らローマ兵なのです。

彼らの中に、やがて主イエス様を受け入れ、信じる者が起こされたのでなければ、マタイは、この出来事を書き記すことが出来なかったはずです。

ゲッセマネの園における主イエス様の捕縛から始まって、主が葬られた墓の見張りまで、全部を行なったローマ兵が存在すると私は信じます。そのローマ兵の為にもイエス様は、十字架にかかって下さったのです。そして三日目によみがえられたのです。

その四人の兵士は、すぐに起こった事実を、ありのままに祭司長たちに報告します。ピラトに報告したのなら、処罰される恐れがあったからです。ユダヤ議会は彼らの身柄の安全を保証し大金を与え、にせの噂を流させます。》

## ◎お知らせ

1. 次回の礼拝は、4月15日(日)午後6時から行ないます。また聖書研究・祈祷会は、4月11日(水)午後6時15分です。
2. 鈴木師は、4月9日(月)お茶の水朝拝会に、そして4月10日(火)東京神学校入学式(校歌斉唱)に参加します。